



第4回

# 人や物について言ってみよう

～ is, are, am の使い方～

学習のポイント

- is と are を使って人や物について話ができる
- I am を使って自分について話ができる
- You are を使って相手について話ができる

英語監修・執筆 鳥飼慎一郎

## is と are を使って人や物について話ができる

### This is my father.

英語の **this** は「これ」と訳されることが多いので、物を指す語と思っている人も多いようですが、**this** は人について言うときにも使えます。

例えば、自分の父親を紹介するときには、

### This is my father.

と言います。この英文の正しい日本語訳は、「(ここにいるのは) 私の父です」です。「これは私の父です」では、自分の父親を物扱いしているような感じになってしまいます。**My father.**とだけ言っても十分通じますが、**This is...**を付けて言ったほうが正式な文になります。

### ■単語や表現

#### a an one

英語を勉強していて難しいと感じる事柄に、**a** の使い方があります。数えることができる人や物が1人あるいは1つの場合には、必ずこの **a** を付けます。**Philip** や **Naomi** のような人の名前には、たとえその人が1人であっても **a** を付けませんが、**teacher** や **policeman** のような人を表す語の前や、**dog** や **bottle** のような物を表す語の前には **a** を付けて、1人であること、あるいは1つであることをそのたびに表します。日本語は比較的数の考え方に寛容なため、どうしてもこの **a** を落としてしまいがちですが落とさないようにしましょう。

この **a** ですが、元々は「1」を表す **one** でした。この **one** が弱く発音されて **an** になりました。今でも **an apple** や **an orange** のように、アイウエオの音で始まる語の前では、**a** ではなく **an** を使います。アイウエオの音以外で始まる語の前では、**an** ではなく **a** が使われ今に至っています。

an idea	(考え)
an egg	(卵)
a dog	(犬)
a bottle	(ボトル)
a teacher	(先生)
a policeman	(警官)

## ■英語の決まり

## is と are

英語では、人であれ物であれ、1人なのか2人以上なのか、1つなのか2つ以上なのかがとても重要になります。言葉の上でもその事を厳密に区別して表します。

例えば、目の前にタオルが1本あれば、**one towel** あるいは **a towel** ですが、2本あれば **two towels**、3本あれば **three towels** と **towel** の後に **-s** をつけて **towels** とします。数字の代わりに「自分の」という意味の **my** や「あなたの」という意味の **your** を付けても同じで、1本のタオルならば **my towel** あるいは **your towel** ですが、2本あるいはそれ以上ならば **my towels** あるいは **your towels** とします。

近くの物を指して言うときに使う **this** も、その物が1つのときは **this** ですが、2つ以上ある場合には **these** となります。この決まりは人についても同じで、1人の学生であれば **one student** あるいは **a student** ですが、2人の学生であれば **two students** となります。今回学習している **is** と **are** も全く同様です。1人の人や1つの物について話をしている場合には **is** を使います。

例えば、目の前にいる日梨1人を紹介する場合には、

**This is Hina.**

**Hina is a student.**

です。日梨と亮の2人を同時に紹介する場合には、

**These are Hina and Ryo.**

**Hina and Ryo are students.**

となります。この4つの文を比べてみると、英語がいかに1人か2人かで言い方を変えるのかがよくわかります。日梨1人を紹介する場合には **this** を使い、**a student** と **a** を使い、**student** の後には何も付けず、そして **is** を使っています。日梨と亮の2人を紹介するときには、**these** を使い、**students** と **student** のあとに **-s** を付けて2人以上であることを示し、そして **are** を使っています。紹介している相手が1人なのか2人なのかで、言葉を徹底して使い分けられていることがよくわかります。これが英語という言葉の数に対する考え方です。

## I amを使って自分について話ができる

## You areを使って相手について話ができる

## I am … と You are …

日本語は自分のことを表す言葉がたくさんあります。「わたくし、わたし、あたし、てまえ、せっしゃ、それがし、わし、おれ、われ、ぼく」など、どれもが自分を指す言葉です。相手のことを指す言葉も、「あなた、あんた、おまえ、きさま、きでん、きこう、そのほう、きみ」などたくさんあります。英語では自分を指す言葉は「I」の1語です。相手を指す言葉も「you」の1語です。そして、自分のことを言うときには **I am …** と言い、相手のことを言うときには **You are …** と言います。これ以外の言い方は他にありません。自分のことを言うのであれば、

**I am Ryo.**

**I am a student.**

**I am young.**

です。相手のことを言うのであれば、

You are Hina.

You are a dancer.

You are pretty.

となります。

column

### アルファベットと発音 ④

## G g

ジーと発音します。小文字の **g** は、手書きでは **g** と書きます。



**good** は、グッドではなく、グールドのように少しウの音を強調して長めに発音するようにすると上手に発音できます。**good** にはたくさんの意味がありますが、基本的には話し手の肯定的な評価を表す言葉です。「これは良い」と褒めるときには、**This is good.** ですし、**Good to see you.** と言えば、「お会いできてうれしいです」という意味になります。気分がいいときには、**I feel good.** と言います。**Good morning.** (おはようございます)、**Good afternoon.** (こんにちは)、**Good evening.** (こんばんは)、**Good night.** (おやすみなさい) のようにあいさつにもよく使われます。ちなみに、**Goodbye** (さようなら) は、**God be with you.** (別れた後も神様があなたのそばにいますように) から来たあいさつで、同じ綴りの **Good** でもその意味と歴史的な経緯が異なります。

**go** は、ゴーではなく、ゴウと発音します。**go** も非常にたくさんの意味がありますが、基本的には話し手のいる所から人や物が離れてゆくことを意味します。駆け足のスタートで言う「ようい、ドン」は、**One, two, three, go!**、あるいは正式に言う **On your mark, ready, go!** です。

## H h

エイチと発音します。日本語でよく言うエッチという発音ではありません。



**hello** は、ハロウと発音します。「こんにちは」という意味のあいさつで、朝昼晩の関係なく使える便利なあいさつです。この **hello** は電話での会話でもよく使います。例えば、**Hello, this is Philip.** (もしもし、フィリップですが) となります。日本語では「もしもし」と2回言いますが、英語では **Hello** と1回だけです。「ただ今」と家に帰ったときに言うあいさつも、**Hello, I'm home.** です。I'm は、**I am** が短くなった言い方です。

**hat** は、ハットとよりはヘアットと発音したほうが英語の発音に近いかもしれません。**hat** の **a** は、アとエが混ざったような音で、アと言うときの口の形をしてエというといいでしょう。日本語式にハットと発音すると、**hut** (小屋) という語に聞こえますので注意しましょう。